劇団仲間ファミリー劇場 in Summer

—2006—

アンサンブルが生み出す笑いと感動！

ふたりのイーダ

原作／松谷みよ子（講談社刊）
脚本／宋　英徳
演出／鈴木龍男

伝えたいことがあるから ー

☆ファミリー劇場の傑作！☆

Invisible Friends

見えない友達

作／アラン・エイクボーン
訳／出月　一幸
台本・演出／亀井　光子

▼芝居って面白い！▲

『見えない友達』

金曜日、学校で水泳の代表選手に選ばれたルーシィは、早く家族にその素敵なニュースを報告しようと大はしゃぎで家に帰ってきます。

ルーシィ　ママ！
ジョイ　しーっ！お父さんが寝ているでしょ。
ルーシィ　ごめんなさい！　ママ！今日何があったか当ててみて！
ジョイ　お父さん、今日可哀想だったんだよ。今度の新人歓迎会の一発芸で荒川静香のイナ・バウアーを披露するために劇団で練習してたら、ぎっくり腰になっちゃって。こっそりやってたもんだから誰にも気づいてもらえなくてさ…。
ルーシィ　すごいニュースがあるのよ！
ジョイ　やっと見つけてもらえたのが一時間後で…。
ルーシィ　ママ…
ジョイ　途中で口を出すんじゃないの、私が話してるんだから。ほんとに可哀想だろ、まったく…。
ルーシィ　は胸の奥で叫びます…
「私の話を聞いてくれるのは『ゼアラ』、あなただけ…。」

作者、アラン・エイクボーン氏にも少年の頃、『ティム』という「見えない友達」がいたという。
「家族なんか要らない！」そう叫んだ彼女は、不思議な体験をします。
ピーターパン以来の傑作といわれるこの作品「見えない友達」。
新たな配役で、演出の亀井さんを中心に、シャープに、熱く、そして笑い
の絶えない稽古を重ねてきました。
東京芸術劇場の舞台にご期待下さい！

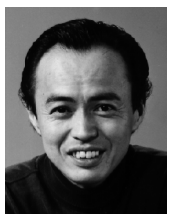
※ルーシィとジョイ（ルーシィの母）の会話はフィクションです。

【三作品連続公演】

新メンバー

ゲーリー/田中　誠

お帰り、ゲーリー。初代ゲーリーが帰ってきました。どんなパフォーマンスを見せてくれるか！Let's go! Makoto!

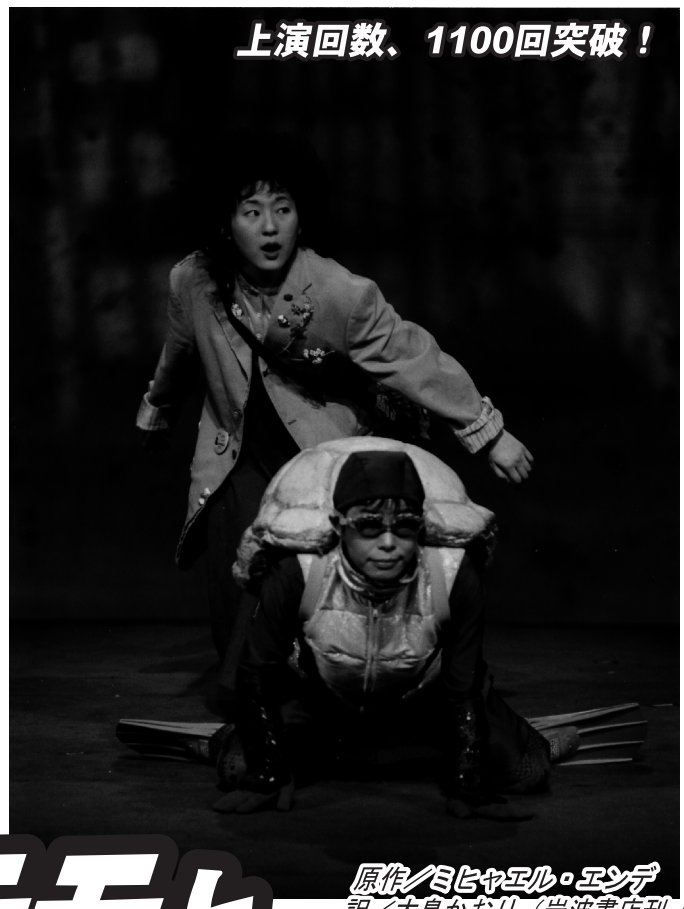


ウォルト/村井　裕

ちょっぴり疲れたお父さんの役。この人に、はまりそうな役です。村井さん、最近、いい味出してます。

STEP UP

発行元　劇団仲間
劇団仲間情報誌 No.20
2006年5月8日発行
164-0011 東京都中野区中央2-54-10
Tel 03-3368-4623　Fax 03-3368-6181
編集責任者　三橋　怜子



盗まれた時間を取り戻せ!!

モモと時間どろぼう

原作／ミヒャエル・エンデ
訳／大島かおり（岩波書店刊「モモ」より）
脚色／小松幹生　　演出／香川良成

▽1993年年度東京都優秀児童演劇選定優秀賞受賞　▽1994年度文化庁芸術祭賞受賞
▽2004年度児童福祉文化賞（舞台芸術部門）受賞

作品	ふたりのイーダ		見えない友達		
公演日時	7/25（火）	7/26（水）	7/28（金）	7/29（土）	7/30（日）
11:00				☆	
14:30	☆	☆	☆	☆	☆
東京芸術劇場　小ホール①（池袋）					

※全席指定　料金：4,000円　（税込み・おとな子ども同一料金・団体割引あり）

作品	モモと時間どろぼう	
公演日時	8/4（金）	8/5（土）
14:00	☆	☆
東京都児童会館		

※全席指定　前売り　3,000円/当日　3,300円
（税込み・おとな子ども同一料金・団体割引あり）

あなたはどれを観る！
私なら全部観る！なんちゃって。
是非、観にいらしてください。

ZAMPA 殘波大獅子太鼓
UFUJISHI-DAIKO
20周年記念公演　＊日時　2006年10月6日(金) 14:00,19:00開演
＊会場　オーチャードホール(東京・渋谷)
4k・WEST 株式会社ケーウエスト
TEL.092-714-2027

☆　来春、劇団仲間ファミリー劇場、新作発表！ただ今作品選考中、まもなく決定！乞うご期待！　会場・新宿全労済ホール。

劇団仲間ファミリー劇場　in Summer／カモメに飛ぶことを教えた猫 ／ 追悼・菊地勇一

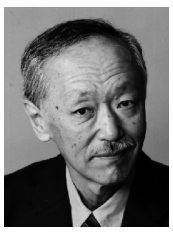
『ふたりのイーダ』

夏休み、小学生の直樹と妹のゆう子は、広島にある祖父母の家に預けられる。
ある日、直樹は古い西洋館で「イナイ、イナイ、ドコニモイナイ…」とつぶやきながら、誰かを探し歩くイスに出会う。イスは《昨日》から戻らない、この家の女の子を待っているという…。しかし、廃墟の様なこの洋館に最近まで人が住んでいたとは思えない。
女の子がいなくなったのは本当に《昨日》なのか。
なぜ女の子は戻らないのか。
それを調べるうちに、直樹は《あの夏の日》のことを知る。

「むか～し、昔のことじゃない。
ほんの少し前のことさ。」

作者の松谷みよ子さんはこう語る。
「伝えなければいけないことがあるのです」と。
―戦争は悪い―

新メンバー



椅子 /兼松正敏

沈着冷静なカネさん。時折見せる笑顔が素敵な方。イーダとの再会にどんな表情を見せてくれるのだろうかー。

椅子 /古川伴睦

様々な顔を持つ人。劇団公演の四作品、外部出演と忙しい。イスをどの様に創造してくれるのか楽しみ！

『モモと時間どろぼう』

おーい！みんなー！お芝居について語りましょ！
…ということで、出演者にインタビュー！

では早速、飛田さんにお願いします！
飛田：あっ、ごめん。今ちょっと忙しい（笑）
!!ここにも灰色の魔の手がっ。
…では気をとりなおして…
よし！志門さんに電話インタビューを…
「留守番電話センターへ接続します…」
あれっ？何度かけても、繋がらない…
んん～！灰色め～！負けないぞ～！

この作品のみどころは？
富山：幕開きの機関車のシーン。いつも舞台袖でみて「かっこいいなぁ。」とワクワクしています。
鶴田：みんなが忙しくなっちゃうところ。そこで時間の大切さを伝えられたらいいなぁ。
更井：一幕の原っぱで、子ども達が船遊びするところ。大人が子どもを演じても、その時は子どもに戻って、その世界が作れるんだなぁ…いいなぁ。と思う。
浜谷：みんなすぐ「忙しい」って言っちゃうような、今日この頃。それは仕方ないのかもしれないけど…モモを観て感じたことを、心のどこかで憶えていてほしいなぁ。

自分の役について教えて！
富山：カメです（笑）言葉が少ないところが好き。人は話しをする時、いろいろな言葉を付け加えちゃうけど、カシオペアは余計なことは言わないよね。
鶴田：「友達の歌」を歌っている時のモモが好き。一緒にいると、ゆったり、安心する。そんなモモになりたいな。
更井：モモと話して、自分を取り戻せるペッポはいいよね。さっぱりした気分で空を見上げるんだよ～!!
浜谷：現代人にきわめて近い役。ジジのマネージャーをみて、ドキッとしちゃうお客様も多いはず！

お客様へ一言！
富山：原っぱで遊んだことありますか？
更井：僕たちが出る芝居は楽しいよ！
鶴田：最後まで、楽しんで下さい！
浜谷：新しいメンバーの「モモ」をお楽しみに！

それでは…モモ班の新しい仲間に事情聴取!!正直に答えてね。
木立：立ち上げから四年経ち、すでに作品のイメージが出来上がっている中で、どう「木立色（コダチショク）」を出していくか…
フージーは、いいお父さんっていう印象だよね。自分とても距離があると思う。だけど、自分の仕事を「つまらない」と言ってしまう、可哀想な大人が見えたらいいな。一幕と二幕でどう彼が変わっていくか…難しいけど…覚悟を決めてガーっとやるぞ！今までは忙しくなると、自分が時間に追われてしまいがちだった。この作品に配役されたことで、心の中に豊かな時間が溢れるような、そんな役者生活になったらいいな。
盗まれていた、自分の時間を奪いかえすぞ!!
鎌田：役者が複数の役を演じるので、衣装の早替えとかで、舞台裏は正直、慌ただしいなぁという印象だったんですよ。それだけで自分もイッパイイッパイになるんじゃないかって不安ですよ。
今まで実は僕、最後に出てくる本物（？）のカメを演じていたんです。最初の頃はカメに見えなかったんじゃないかな？客席からも僕が出たとたんに笑いが起こったりもしましたし…でも少しずつ僕の中で変わっていったんです。これから演じる役も、稽古をしていく中で好きなところをみつけていきたいです。僕、踊り上手くないけど（笑）、人の真似でない自分なりの踊りができたらいいなぁ。
セカセカしないで、人とかかわる大切さを伝えたいです。

二人とも緊張しているようですが…頑張れ～!!
「大丈夫。あなたにはできる！」…byカシオペア
☆☆茜

新メンバー

フージー 木立　実

灰色の男 鎌田睦大

カモメに飛ぶことを教えた猫

原作／ルイス・セプルベダ
訳／河野万里子（白水社刊）
脚本／いずみ凛
演出／菊池　准

小さな俳優さんたちへ

みんな、出番の前にすごく緊張してるのはわかったよ。当日まで一生懸命練習してきたんだなぁって、目を見ればわかる。それを見て、なんだか逆に僕たちが感動をもらったような気がするんだ。ありがとう。
今回の経験が、これからの生活の中でちょっとでも役に立つことがあったなら、とても嬉しいです。
心の声は、いつか叶う。

ノラネコ／飛田晃治

子どもたちと共に創る舞台　―2006年度再び！

【2006年度本物の舞台芸術体験事業作品に決定】

●公演を終えた学校からたくさんの感想文を戴きました。本当にありがとうございました。その中から、素敵な一文を御紹介いたします。
広島県府中市立北小学校・田原瑶子さんから戴いた感想文です。

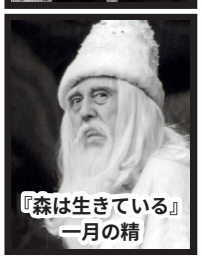
私は、かもめの役でした。本当にできるのかと、不安と緊張でいっぱいでした。でも、劇団の人が、おもしろいことを言ったりして緊張感をほぐしてくれました。劇団の人の演技のうまさに感動しました。
しかし、私が感動したのはそれだけではありません。ストーリーです。一度はくじけそうになったフォルトゥナータ。しかしまわりの人に支えられ，飛ぶことを決心したところで涙が出るくらい感動しました。どんないきものでも周りから支えられ、生きていくんだということがわかりました。
「私にできないことはない。」とフォルトゥナータが言った時、ぴくっとしました。それは，私自身が自分のことをそう思っていることがあったからです。「大丈夫。絶対とべるよ。」私は心の中でフォルトゥナータをずっと応援しました。それは、心の中の自分の声だと気づいたからです…。

追悼、菊地のだんな

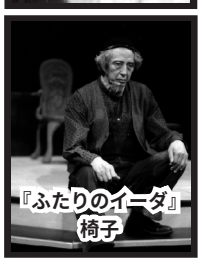
夜明け・・動物が目覚める・・続いて人間の登場。そして穏やかに「神の世界」に誘う序幕が好きだ。と、だんなは云う。
湯浅芳子と親交が深く、全編「詩」である『森は生きている』をこよなく愛し、これぞ世界遺産と云った。この世界遺産論を入団間もない頃から、筆者は度々聞かされた。
言い尽くされた事だが、だんなは「誇り高き天才」である。その芸風は絵画的で植物的であった。
料亭の一人息子として生を受けただんなは、絵画で芸大受験を試みたが果たせなかった。お陰で俳優養成所の門を叩く事になる。
仲間へ入団後もだんなと呼ばせ、陽の当たる表通りを歩いた。座長の中村俊一もだんなには一目置き、駄目を出さない事があった。時としてだんなの絵画的イメージは中村俊一のそれを遙かに凌いだと云う。正に絵画的王道の五十年であった。
非日常の舞台は勿論、日常の趣も絵画的であった。だんなは、今年一月サザンシアターで突然、病に伏した。意識の戻らぬ中にあっても、その趣は絵画的で、一分の隙もなく、ダンディーであった。
五十年間。舞台上で絵画的自由を謳歌して来ただんなも、晩年は自在とはいかず「胸呼吸」の為に極度にデッサン力が落ちて、在り来たりな「単色の絵画」と化してしまった。今思えば病の兆しと思う。
今頃は、天国の千客を前に「人差し指」を高々と振りながら、絵画的な「一月の精」を演じている事だろう。
・・・合掌。

劇団仲間　演出部　飯塚　彰

菊地勇一（きくちゆういち）
昭和九年一月十三日生まれ。秋田県湯沢市出身。
俳優座養成所（六期）を卒業、一九五七年劇団仲間入団。
二〇〇六年一月四日（水）、脳溢血のため永眠。



『森は生きている』
一月の精



『ふたりのイーダ』
椅子

●『森は生きている』十二月一日より全国公演！
東京公演は十二月二十三日より二十七日、一月四日・五日
紀伊國屋サザンシアターで公演！
●劇団仲間・劇団ｔｈｅｖｏ共同プロジェクト「手：ＨＡＮＤ」
ドイツで十四ステージ及びワークショップを終え帰国。
●スタジオ公演《フリンジ》第一回公演
松田正隆：作『海と日傘』『紙屋悦子の青春』終了。
第二回公演に向けて企画検討中！

編集後記

今年一月四日、俳優・菊地勇一が『森は生きている』公演前に倒れ、搬送先の病院で息を引き取りました。公演を楽しみにお待ち下さったお客様には、突然の公演中止により多大なるご迷惑、ご心配をおかけし、本当に心苦しく思っております。誠に申し訳ありませんでした。
大きな人を失ってしまいましたが、より質の高い舞台を目指し、劇団員一同日々精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

編集責任者　三橋怜子

☆ チケットのお申し込み、公演情報、公演依頼等はこちらをご利用下さい　→　Tel 03-3368-4623　Fax 03-3368-6181
http://www.gekidan-nakama.com　E-mail:info@gekidan-nakama.com